

2013 年度 日本臨床検査医学会 第 1 回理事会 議事録

日 時：2013 年 3 月 24 日（日）12：00～15：30

場 所：学士会館 2F 202 号室 東京都千代田区神田錦町 3-28（〒101-8459）

出 席：村田 満理事長、前川真人副理事長、矢富 裕総務理事、北島 勲会計理事、
宮地勇人、米山彰子、村上正巳、 \sphericalangle 谷直人、安東由喜雄、佐守友博、尾崎由基男、横田浩充、野島孝之、
渡邊直樹、本田孝行、田窪孝行、杉浦哲朗、康 東天 各理事
一山 智、高木 康 各監事（20 名）

陪 席：蛤谷国男会計顧問（14 時）、川中士郎 JACLaS 代表理事（14 時 30 分）

欠 席：藤田清貴、賀来満夫、和田隆志 各理事（3 名）

会に先立ち、村田満理事長から挨拶があり、横田浩充理事、康東天理事を議事録署名人に定め議事を進めた。

I 報告事項

1. 支部報告

各支部の終了した例会・総会・地方会、そして例会・総会・地方会の予定、支部役員の交代、支部での検査関係の教授、部長、技師長の退任・新任等について報告があった。

2. 委員会報告

1) 編集委員会（宮地勇人 担当理事、村上正巳 委員長）

3名の委員交代、2012年度掲載論文について優秀論文賞の選考を行うこと、投稿規程の改定、投稿提出用紙の改訂を行う予定であることが報告された。

2) 教育委員会（北島 勲 担当理事）

指導医について検討したこと、指導医マニュアルを検討予定であること、医学部における臨床検査医学の卒後研修カリキュラム基準を見直していること、神戸での第 60 回学術集会でも臨床検査を学ぶ若手医師の会を専門医会と共同開催で検討していることが報告された。

なお、指導医規定、資格認定のための単位、専門医試験用テキスト作成についての理事会での検討依頼があった。

3) 臨床検査点数委員会（米山彰子 担当理事）

2 月 26 日に専門医会保険点数委員会と合同委員会を開催し、平成 26 年度医療技術評価・再評価に係る評価方法、臨床検査振興協議会医療政策委での連携および検討内容、コスト調査結果、血中アポリipoprotein B 測定における問題点の検討、平成 26 年度診療報酬改定での当会ならびに専門医会からの提案項目の見直しを行い、当会から 14 項目、専門医会から 9 項目を提案項目とすることが報告された。

4) 学会賞委員会（矢富 裕 担当理事）

2013 年度学会賞選考日程予定が報告され、臨床病理 4 月号およびホームページに学会賞募集要項を掲載すること、また 4 月初旬に評議員に募集案内をメールで行うことが報告された。

5) 標準化委員会（前川真人 担当理事）

2012 年 12 月 1 日、第 59 回学術集会時に委員会を開催し、2013 年度の委員会活動計画について検討し、委員それぞれがデータ収集を行い、それをまとめて報告書を作成して、学術集会発表、論文としてまとめる予定であることが報告された。

また、同日、基準範囲共用化合同WGが開催され、学生基準範囲の見直し、共用基準範囲の今後の展開作業について検討したことが報告された。

6) 精度管理委員会（ \sphericalangle 谷直人 担当理事 前川真人 委員長）

2012 年度 CAP サーベイ報告書が提示され、2012 年度 CAP 国際臨床検査成績評価プログラム(CAP サーベイ)登録参加施設は 105 施設であったこと、2013 年度の参加状況が報告された。

7) EBLM 委員会（村上正巳 担当理事）

2012年12月1日、第59回学術集会時に委員会を開催したこと、2012年度EBLM講習を12月2日に開催して約40名参加者があり、統計ソフトによる演習を行い概ね好評を得たこと、EBLM教科書作成状況、検査データに関する多施設間での共同研究の検討、実施について、そして、この共同研究を第60回学術集会のWSに応募したことが報告された。

8) 倫理委員会（村上正巳 担当理事）

2012年12月1日、第59回学術集会時に委員会を開催し、研究発表に際しての倫理面でのチェック体制ならびに臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について学会の見解の遵守状況、編集委員会、利益相反委員会、コンプライアンス委員会等との役割分担と連携、会員外の専門の先生をアドバイザーとして招聘したいことが報告された。

なお、提案した外部委員1名について承認された。

9) 利益相反委員会（村上正巳 担当理事）

第59回学術集会からCOI開示を行うこととなり、COI開示の方法を検討したこと、各委員より提出された指針案の分担分を再構成し、最終的な指針案を取りまとめる予定であることが報告された。

10) コンプライアンス委員会（村上正巳 担当理事）

コンプライアンス委員会内規案を策定し、定款、細則等との整合性をとるため、会則改定委員会に依頼したことが報告された。

11) ガイドライン作成委員会（北島 勲 担当理事）

2012年末に臨床検査のガイドラインJSLM2012（80項目）が完成し、会員（約2920部）、関連機関（約680部）に発送したこと、発刊費用が予算380万円のところ最終的に約680万円の経費となったこと、約1000部は一般販売していること、臨床検査協議会のポケット版の準備状況、第60回学術集会でガイドライン改訂のポイントを概説し、普及を図りたいことが報告された。

12) 広報委員会（佐守友博 担当理事）

2012年12月1日、第59回学術集会時で委員会を開催したこと、臨床検査振興協議会の広報委員会と協調して、国民には、ポスター、グッズを利用して臨床検査を広報すること、医療従事者には、臨床検査技師、看護師向けの研修会の開催などを通じて臨床検査専門医を広報していくことを計画したことが報告された。

13) 臨床検査室医療評価委員会（米山彰子 担当理事）

2012年11月30日、第59回学術集会時に委員会を開催し、委員より検査部門の情報を院内にアピールするための実績の紹介があったこと、収支、必要経費、人件費などの経営面の視点、外注比率、チーム医療への参加状況、臨床からの問い合わせ件数などの臨床支援体制の視点でアンケート調査を行う検討がなされたこと、今後の活動予定について検討を行ったことが報告された。

14) 専門医・管理医委員会（北島勲 担当理事）

臨床検査専門医試験内容に関して検討したこと、講義・臨床実習などを通して、学生が臨床検査に対して興味を持ってもらえるようロールモデルの作成が必要であること、このため、専門医会の専門医数増加方策WGと連携について検討したこと等が報告された。

15) 国際委員会（尾崎由基男 担当理事、渡邊直樹 委員長）

2012年12月1日、第59回学術集会時で委員会を開催し、2012年度の国際学会奨励賞の受賞候補者に関して選考を行い、WASPALM(ラスベガス)での発表を行った安間恵子氏（京都大学医学部附属病院）を受賞候補者（奨励金10万円）と決定したことが報告された。これについて理事会で協議して承認された。なお、奨励金が旅費の補助なのか、単に副賞なのか委員会に確認が求められ、前者であることが回答された。

16) 会則改定委員会（米山彰子 担当理事 ㄨ谷直人 委員長）

定款の改定案を作成したこと、そして細則の改定を進めており8月の理事会までにまとめる予定であることが報告された。

17) 日臨技-JSLM 合同未来構想委員会（本田孝行 委員長）

日臨技およびJSLMの現状について話合う中から、いくつかの問題点があることがわかり、今後これらの原因を明らかにし解決法を探ることにしたこと、今後の臨床検査（臨床検査技師、臨床検査専門医）の地位向上のために協力していくことを確認したことが報告された。

18) 遺伝子委員会（横田浩充 担当理事、宮地勇人 委員長）

臨床検査振興協議会医療政策委員会から、平成26年度診療報酬改定に向けての検討のため、遺伝子・染色体検査の平成24年度診療報酬改定に関する満足度調査依頼があり対応し調査を行ったことが報告された。

19) 医療安全委員会（ㄨ谷直人 担当理事）

第59回学術集会(京都)で医療安全シンポジウムとして、「臨床検査における患者誤認対策」をテーマにして講演会を行ったこと、第60回学術集会(神戸)での医療安全シンポジウムのテーマは「臨床検査と個人情報管理」(仮)として企画することになったことが報告された。

20) 検査項目コード委員会（佐守友博 担当理事、康 東天 委員長）

2012年度は3回の委員会を開催し、JLAC10の新規登録を、分析物コード22件、識別コード12件、材料コード1件、測定法コード2件、結果識別(固有)コード26件を実施したこと、臨床検査項目標準マスター運用協議会で、JLAC10・臨床検査マスターの改善について検討しており、各団体と共同で2回のSWG会議を開催し、提言書としてまとめる予定であることが報告された。

3. 第59回学術集会報告（一山 智 会長）

2012年11月29日～12月2日(木～日)に、国立京都国際会館で、一山智会長のもと、テーマ「臨床検査の再生」として開催され、会長シンポジウム2題、特別講演2題、教育講演6題、シンポジウム14題、教育セミナー2題(POC、EBLM)、Reverced CPC、CPC、ランチョンセミナー16題、ワークショップ5会場、一般演題口演397題、ポスター49題、有料参加者数1967名であったこと、臨床検査機器・試薬総合展示会2012京都大会、第55回近畿支部総会、第12回ASCPaLM会議が同時開催されたことが報告され、全国の会員、役員、実務委員、関係企業への多大な支援と協力への感謝が述べられた。

4. 第60回学術集会報告（矢富 裕 会長）

2013年10月31日～11月3日(木～日)に、神戸国際会議場で、矢富裕会長のもと、テーマ「一致団結！臨床検査」として開催予定であり、特別講演、会長講演、教育講演、共催シンポジウム、R-CPC、各種委員会特別企画、その他の企画、そして、一般演題募集期間は4月4日～5月23日の予定であることが報告された。

5. 第61回学術集会報告（康 東天 会長）

2014年11月23日～26日(日～水)に、福岡国際会議場で、康東天会長のもと開催予定であり、今後プログラム等について検討していくことが報告された。

6. 第62回学術集会報告（矢富 裕 総務担当）

2015年11月19日(木)～22日(日)に、岐阜県の長良川国際会議場、都ホテルで、清島満(岐阜大学)会長のもと、開催予定であることが報告された。

7. 第12回アジア臨床病理・臨床検査医学会報告（北島 勲 会計理事）

2012年11月29日～12月1日(木～土)に、国立京都国際会館で、高橋伯夫会長のもと第59回学術集会と同時に開催された第12回アジア臨床病理・臨床検査医学会の会計収支の報告があった。

8. 2014年度からの名誉会員、功労会員、新評議員の推薦について（村田 満 理事長）

名誉会員、功労会員、評議員の資格要件の細則、各支部の名誉会員、功労会員該当者が示され、名誉会員、功労会員については、本人の承諾を得たうえで9月10日までに各支部から推薦するよう依頼された。
また、評議員については、支部正会員の10%の評議員候補者定員数が示され、都道府県別、所属機関別に偏らないよう検討のうえ、9月10日までに推薦するよう依頼された。

9. 2013年度役員について（村田 満 理事長）

2012年度から副理事長、会計担当理事が交代となっているため、あらためて、2013年度役員名簿が報告された。
なお、安東由喜雄理事は、学会活性化の担当理事となった。

10. 認定試験日程等について（村田満 理事長）

1) 第30回臨床検査専門医認定試験

2013年8月17日～18日(土～日)、兵庫医科大学で実施すること、試験要領は、臨床病理2月号、ホームページに公開していることが報告された。

2) 第5回臨床検査管理医講習・認定試験について

2013年9月15日(日)、東京大学医学部附属病院で実施すること、試験要領は5月にホームページに掲載して、臨床病理5月号に掲載する予定であり、講師として、臨床検査医学総論：山田俊幸先生（自治医大）、精度管理：三宅一徳先生（順天堂大）、衛生検査所関連：山口宏茂先生（兵庫県登録衛生検査センター）にお願いすることが報告された。

11. 第29回日本医学会総会2015関西、第10回特別例会長の推薦について（村田 満 理事長）

2015年4月11日～13日（土～月）、第29回日本医学会総会が、京都の国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都、京都大学百周年時計台記念館を会場として、井村裕夫（京都大学名誉教授、元大学総長）会頭のもと開催されることが報告され、このときに、日本医学会の分科会として当会第10回特別例会を開催する予定となるため、特別例会長の推薦が近畿支部に依頼された。

12. 当会から関連団体への推薦について（村田 満 理事長）

常任理事の交代に伴った日本医学会の委員交代、JCCLS用語委員会委員、医療関連サービス振興会からの依頼により衛生検査所・地区委員会委員ならびに顧問をあらたに推薦したことが報告された。

13. 「検体保存条件の設定温度」についての問合せ（日衛協より）（前川真人 標準化担当理事）

日衛協より「検体保存条件の設定温度（常温、冷蔵、冷凍）」についての問合せがあり、標準化委員会担当理事と委員長で回答案を作成して常任理事会で確認後に日衛協に回答したこと、そして、広くお知らせするため、「検体保存条件の設定温度」についての標準化委員会Q&AとしHPに掲載したことが報告された。

14. 日本医学会評議員会報告（村田 満 理事長）

2月20日、第80回日本医学会評議員会が日本医師会館小講堂で開催され村田理事長が出席した。第29回日本医学会総会準備状況報告、2013年度事業計画、法人化の進行状況、2012年度新規加盟学会について28学会から申請があり6学会の加盟が認められたこと等が報告された。

15. その他

1) 支部活動費、第60・61回学術集会補助金、専門医認定試験費用送金について（村田 満 理事長）

・支部活動費（一律20万円+支部会員数×500円）を送金することが報告され、2012年度の支部会計報告の提出が依頼された。

・第60回学術集会に400万円と1200万円、第61回学術集会に100万円を補助金として送金することが報告され、第61回学術集会の送金口座開設の依頼がされた。

・臨床検査専門医認定試験費用送金200万円を試験実行委員会に送金することが報告された。

2) 支部総会、例会、地方会、講師謝礼、実務委員の謝礼支払い時の源泉について（村田 満 理事長）

前理事会で報告した内容の再確認として、支部会事務局から外部講師に謝金を支払うような場合、原則的には所轄の税務署に事業開始届を提出し、源泉徴収税を支払う必要があることが伝えられた。

3) 2012 年度会員名簿発刊について（矢富 裕 総務理事）

2010 年度会員名簿までは、通常臨床病理 2 月号等に掲載される内容に、会員名簿（氏名と勤務先）のみの掲載であり、会員名簿の意味がないと思われた。そのため、2012 年度会員名簿は、会員に掲載の可否を問合せた上で、氏名、勤務先か自宅、TEL、FAX、メールアドレスを入れることになり、2013 年 2 月に完成して会員に発送した。なお、会員名簿納期遅れのため、作成費の減額を要請したことが報告された。

4) 血尿診断ガイドライン検討委員会報告（村田 満 理事長）

当会からの派遣委員の菊池春人（慶應大）先生よりの報告で、これまでの約 2 年間、メール会議により、ガイドライン作成の検討、パブリック・コメントを仰ぎ、2013 年 3 月 10 日に日本泌尿器科学会・日本小児腎臓病学会・日本臨床衛生検査技師会・日本臨床検査医学会合同の第 2 回血尿診断ガイドライン検討委員会が開催され血尿診断ガイドラインがほぼ完成となったこと、日本腎臓学会と日本泌尿器科学会で版權を半分ずつ持ち、ライフサイエンス社に作成を依頼し、2013 年 5 月 10 日からの日本腎臓学会学術総会までに出版予定であることが報告された。

5) 一般社団法人日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会からの報告（川中士郎 JACLaS 代表理事）

JACLaS は設立して間もないため、当会、日本臨床検査自動化学会等への対応、学術集会での機器・試薬セミナーなどの共催行事について具体的な内容のよい案が出ておらず、サポート等の対応が決定していない状況ではあるが、従来の学会への展示会関連の配分は寄付の形で継続する方向性が承認されており、今後、顧問の弁護士、税理士等と相談して、意向に沿えるようにしていきたいとのことであった。

Ⅲ 審議事項

1. 2012 年度事業報告・会計収支決算報告について（村田満 理事長、北島 勲 会計理事）

事業報告書、貸借対照表、損益計算書、監査報告書が提示され、事業報告については村田満理事長から報告、会計収支決算報告については前川真人会計理事から説明があった。

一般会計での臨床検査のガイドライン 2012 の作成費・原稿料・送料は予算と比較をして、約 300 万円予算オーバーしており、次回は予算内で作成できるよう計画してもらうこととなった。

委員会活動費が、約 120 万円予算オーバーのことについて、委員会毎の経費一覧が資料として提示され、次年度からは、節約するのは前提であるが、委員会で活動費用予算を立て提出してもらい、それを合算して委員会活動費の予算とすべきとなった。

2012 年度一般会計の収支差額が約 700 万円あるため、ガイドライン作成費用分を特別会計から一般会計に補填することとなった。

一山智監事より、監査報告があり承認された。

2. 2013 年度各種委員会について（村田 満 理事長）

日本臨床検査医学会委員会細則 第 2 条 5 に、理事会は各委員会の組織、任務及び存続について毎年度初頭に審議し、可否を決定するとあるため、各種委員会と委員長名簿が提示され、承認された。

3. 定款改定（案）について（村田 満 理事長、米山彰子担当理事、谷直人委員長）

理事会開催前にも、役員にメールで定款改定案を送付して確認を依頼していた、理事会でも同じ案が提示され、特に指摘箇所はなく承認された。

4. 学会賞に関する規定の改定案について（村田 満 理事長、矢富 裕 担当理事）

学会賞の規定骨子案については、理事会のメール審議にて承認されており、それに基づいた改定案、各賞の的一对一対応ではなくなるため、その協賛 3 企業からの依頼状への条件付の回答が提示され、条件については対応することとし、規定について承認された。

6. 評議員再任結果について(2013年1月1日付)(村田 満 理事長)

評議員再任の審査結果一覧が提示され、再任単位を満たした 27 名については問題ないが、該当の支部長にも確認を依頼した未申請者 3 名については、更新辞退を認めることとなり承認された。

7. 2014・2015 年度臨床検査管理医試験実行委員長について (村田 満 理事長)

2012 年 12 月 22 日に開催された臨床検査専門医・管理医審議会で、2014・2015 年度臨床検査管理医試験実行委員長を東條尚子先生(東京医科歯科大学)に依頼するとなったことが報告され承認された。

8. 指導医について (村田 満 理事長)

2012 年 12 月 22 日に開催された臨床検査専門医・管理医審議会において、教育委員会で検討された認定研修施設での指導医(案)について検討し、施設と個人の何れに帰属するについては、個人に付随するのが妥当となったことが報告され承認され、それに従い、詳細を教育委員会に再検討いただく。

9. 臨床検査専門医制度認定更新規定の一部改定について (村田 満 理事長)

2012 年 12 月 22 日に開催された臨床検査専門医・管理医審議会、臨床検査専門医と臨床検査管理医の認定更新単位の、B. 日本臨床検査専門医会が主催する教育セミナー・講演会の参加 10 単位について、教育セミナーは一日であるのに対して講演会の時間が 50 分と短時間であるため、教育セミナーと講演会の単位を分けるのが適切となり、それぞれ、10 単位、5 単位とするとなったことが報告され、承認された。

10. 専門医制度検討委員会認定研修施設へのアンケート調査について (村田 満 理事長)

専門医制評価・認定機構「専門医制度における研修プログラム(研修施設)整備指針」で、機構に専門医研修プログラム委員会が設置され、それによる個々の研修プログラム(施設群)の評価を行い、研修プログラム(施設群)を認定することが明示されたことを受け、臨床検査専門医制度検討委員会では、臨床検査医学は他の領域に比べても広範な領域を研修する必要があるため、1 施設では必須 8 科目の研修は行なえないことがあると危惧されるため、研修プログラム(施設群)の構築を計画した。そのため、当会の研修認定施設に、どの領域の研修担当が可能か、また、他施設の研修医の受け入れの可否についてアンケートを行う計画があることが報告され、アンケート調査を実施することが承認された。

15. その他

2013 年度理事会日程 (矢富 裕 総務理事)

第 2 回～第 4 回の理事会の予定が下記の通り報告された。

第 2 回：8 月 25 日(日) 正午、第 3 回：10 月 5 日(土) 正午、第 4 回：12 月 14 日(土) 正午 (予定)

V 閉会の挨拶 (前川真人 副理事長)

前川真人副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

次の定時社員総会の開催予定時間となり、審議事項 5：第 63 回(2016 年)学術集会長の推薦について、審議事項 1 1：臨床検査専門医認定試験に対応するテキスト作成の検討について、審議事項 1 2：支部総会・例会の会計報告の提出について、審議事項 1 4：日本人類遺伝学会からの依頼について、審議事項 1 5：その他二項については、審議継続ができなかった。

このため、審議事項 1 1：臨床検査専門医認定試験に対応するテキスト作成の検討について、審議事項 1 2：支部総会・例会の会計報告の提出について、は、次回理事会で審議することとなり、審議事項 5：第 63 回(2016 年)学術集会長の推薦について、審議事項 1 4：日本人類遺伝学会からの依頼について、審議事項 1 5：その他二項については、後日、メール審議を行った。

3 月 26 日配信～4 月 3 日締切で実施したメール審議結果について

審議事項 5：第 63 回(2016 年)学術集会長の推薦について

理事からの意見を集約し、その意見をもとに次回理事会で継続審議することとなった。しかし、第 63 回(2016 年)

学術集会長の選考を進める必要があるため、まず、例年通り、全支部に学術集会長候補者の推薦を依頼し、8月25日の第2回理事会で、支部順番制を変更するか、開催場所や他学会との同時期開催の可能性などの方向性を充分協議した後、推薦された候補者の中からその方向性に合致した方を選出することとなった。

審議事項 14. 日本人類遺伝学会からの依頼について

理事 21 名中、「認定する」3 名、「認定しない」15 名、「その他」1 名、未回答 2 名で「認定しない」が過半数を超えたため「認定しない」ことで承認された。

なお、今後、当会のサブスペシャリティ領域については、学会として慎重に検討する必要があり、十分な議論が必要という意見が大半のため、今後、理事会で継続審議する予定となった。

審議事項 15：その他の二項について

1) 現在 5 団体に構成している臨床微生物検査技師協議会を 7 団体に増やすことについては、理事 21 名中、「承認する」17 名、「承認しない」0 名、「その他」1 名、未回答 3 名で「承認する」が過半数を超えたため承認された。

2) 日本臨床検査専門医会教育研修施設委員長からの提案：臨床検査専門医教育セミナー（5/19）の案内を臨床検査管理医に配信することについて

理事 21 名中、「承認する」17 名、「承認しない」0 名、「その他」1 名、未回答 3 名で「承認する」が過半数を超えたため承認された。

以上

議事録署名人

康東天



横田若充

